みよし学園研究テーマ

まちづくりに参画・貢献し、高い志を持つ児童生徒の育成

みよし学園がこの学年で育成したい資質・能力

コミュニケーション能力	協調性	主体性
<ul style="list-style-type: none">○根拠を明確にしながらか自分の考えを持ち、他者の思いや考えを理解することができる。○言葉で伝え合うことを通して、互いを認め、尊重し合うことができる。○課題に対する視点を明確に持つことができる。○他者の考えを活用することができる。○根拠や合理性などを問う意識や論議することの価値がわかる。	<ul style="list-style-type: none">○一人では解決が難しい課題に対して、自ら積極的に他者と関わり、ともにより良い解決方法を導くことができる。○解決に向けて協働して取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none">○日々の生活の中で、自己や社会の課題に対して、自ら目標を設定することができる。○周囲への感謝の心を持ち、自らの判断で、自他の幸福のためによりよい取組方法を模索しながら信念をもって行動することができる。

総合的な学習の時間学習指導案

三次市立三次中学校

T1 佐久間 彩海

T2 井上 健太郎

T3 杉原 悠河

T4 藤山 智弘

1 日 時 令和6年11月11日(月) 5校時

2 学年・組 第3学年A組(31名)
第3学年めぐみ学級(1名)
第3学年のぞみ学級(2名)

3 場 所 3年A組教室

4 単元名 みよしまちガイド

5 単元について

(1) 単元観

本学年の生徒は、総合的な学習の時間において地域学習として1年次に「グッドタウンみよし」、2年次に「職場体験学習」に取り組んできた。1年次で行った単元の目的は、自分たちが住む三次町の自然や産業に興味をもつとともに、三次市全体の伝統や文化について興味を広げ、魅力あるふるさと三次にするために自分たちができることについて考えを提案することである。また、2年次で行った単元の目的は、1年次で調査した産業等に関わりながら三次で働く人々の存在や働くことの意味を知り、実際の体験を通して自己の理想の将来を実現しようとする態度を育てることである。

これまでの学習を踏まえ、3年次では、1年次で提案した内容や2年次で学習した三次町の活動の実際をもとに、地域の魅力をより効果的に発信することを目的として探究的な学習を行う。具体的には、校区内の三次町で実施される行事「三次ふれあいフェスタ」への参画を通して、地域への貢献や発展を目指すことである。

また、取組の中で令和3年度から実施しているコミュニティ・スクール(以下CS)を生かして、地域人材の活用場面を設定する。地域・社会と連動したカリキュラムを設定することで、みよし学園が育成を

目指す資質・能力を高めていく。また、本活動を通して地域の一員であることを深く自覚し、生活をより豊かにしていくために自分の考えをもったり、他者の考えを活用したりして、地域の発展や社会へ参画する意識を高めることができる考える。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、総合的な学習の時間に対して前向きで、地元地域の活性化に向けて提案したり行動したりすることに協力し合える関係性ができている。5月に実施した総合質問紙調査からも、「勉強やスポーツ、習い事、しゅみなどで、今がんばっていることがある」の項目において全国平均+0.3p、「お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加している」の項目において全国平均+0.4pという結果が得られている。

一方、自分の意見を明確して分かりやすく他者に伝えたり、他者の意見に対して批評をしたりすることに課題がある。総合質問紙調査においても「学校生活の中で発言をするとき、他の人と同じ意見だった場合でも、自分なりに考えて発言している」の項目において全国平均-0.3p、「クラスの多くの人や仲のいい友達と意見がちがっても、自分が正しいと思ったことは、それを主張することができる」の項目において全国平均-0.1pという結果である。また、3つの資質・能力に関する項目において、本学年の生徒は以下のような結果であった。

	本学年	全国	全国との差
主体性	68.8%	73.1%	-4.7p
協調性	64.1%	54.9%	+9.3p
コミュニケーション能力	53.2%	54.3%	-1.2p

以上のことから、協力し合える関係性をもちながらも、自分や自分の発言に自信をもてない状況にあることが伺える。自己を形成する上で他者と比較したり思い悩んだりする思春期の時期ではあるが、大人へと成長し自己選択・自己決定力が求められる社会へ進んでいく生徒たちにとって、課題を発見し、試行錯誤しながら解決していくための情報収集や解決方法を自ら考え実行していく経験をすることが、自己肯定感を高めていくことにつながると考える。

(3) 指導観

指導に当たっては、みよし学園の育成したい能力である「主体性」「協調性」「コミュニケーション能力」の向上を目指して、以下の点を工夫し、学び合いのある授業づくりを目指す。

まず、「主体性」の向上を目指して、「三次ふれあいフェスタ」実行委員長や副委員長から直接参画依頼をしていただく。そうすることにより、地域の中で必要とされ、期待される中学生の存在を生徒たち自身に実感させ、結果、自己存在感や自己肯定感を高め、全員が自分事として活動に取り組むことができるように単元の導入【第一部 課題の発見】を工夫する。

次に、「協調性」向上を目指して、CSを生かした地域人材との関わりを多く持たせる。本学年の生徒は、1年次よりCSメンバーを中心とした多くの地域の方々との関わりを通して総合的な学習の時間の取組を行ってきた。自分たちが住む地域の文化や魅力をより詳しく教えてもらうだけでなく、異世代間の多様な視点からの物事の捉え方を交流し、学びを深めるために3年次でもCSを活用する。特に、【第一部まとめ・表現】【第二部 情報の収集】において、地域行事への参画という学校だけでは難しい課題に対して、学校と地域の間で目標を共有し、協働して取り組んでいきたい。

そして、「コミュニケーション能力」向上を目指して、これまでの学びを生かした「三次ふれあいフェスタ」参画の成功イメージを、生徒間で十分に共有させたい。目的や目標が曖昧な状態では、根拠を明確にした話し合いや他者の考えを理解しようとするのは困難である。自信を持って発言することに抵抗がある生徒が多いため、生徒に考えさせる方向性を一本化し、課題や解決方法のみに視点が向けられるような土台作りを行いたい。成功イメージを決める際、ただ来客者が増えればよいという考え方ではなく、これまでの学びを生かして三次の良さをより多くの人々に知ってもらおうということを常に確認する必要がある。

また、成功イメージの設定後、生徒たち自身が活動の企画や運営における効率性や効果的な進行について考察し、その考えを基にグループ編成を検討・決定させる場面を設け、少数グループ（各グループ10人程度の3グループ編成）に分けて企画・活動を進める。この工夫によって、一人ひとりに個別の役割をもたせることで責任感が生まれ、目標達成に向けて主体性をもって活動することを期待する。また、少数グループでは一人ひとりの意見がより尊重され、考えや発言がグループ全体に反映されやすいことから、各自の立場から企画内容や実施方法について意見を出し合わせることで、全員が納得できる企画の実現に向けて合意形成を図ろうとする意識をもたせていきたい。

6 単元の目標

「三次ふれあいフェスタ」参画を通して、三次に住む人々のふれあいを増やすために地域の中で様々な活動や取組を行う人々の存在やその人たちの思いを理解し、地元三次の良さを伝える視点からこれまでの学びを生かした地域貢献の方法について考えるとともに、自分も地域の一員であることを自覚し地域のためにできることを考えて積極的に関わることができるようにする。

7 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①三次に住む人々のふれあいを増やすために地域の中で様々な活動や取組を行う人々の存在や、その人たちの思いを理解している。</p> <p>②課題解決のために、観点や根拠を明確にして情報を収集し、必要な情報を取捨選択して企画書やスライドにまとめている。</p> <p>③三次に住む一員として地域貢献の取組を立案・運営することは、自らの行動が社会をより良くすることにつながっていることを理解している。</p>	<p>①これまでの学びを生かして三次の良さを伝えるための企画を立案・改善するための、見通しをもった計画を立てている。</p> <p>②三次の良さを伝える方法について、観点を明確にしなが、適切な手段を選択して情報を収集したり、フィールドワークを実施したりしている。</p> <p>③収集した情報を分類・比較し、目標と照らし合わせながら、活動の内容や成果、課題について整理・分析している。</p> <p>④これまでの学びを生かして地域貢献をするために、地域の一員として自分たちにできることを考えるとともに、自身の将来への生かし方について考え、表現している。</p>	<p>①三次に住む人々のふれあいを増やすために地域の中で様々な活動や取組を行う人々の存在や、その人たちの思いを理解しようとしている。【コミュニケーション能力】</p> <p>②課題解決に向けて自ら目標を設定し、よりよい取組方法を模索しながら行動しようとしている。【主体性】</p> <p>③一人では解決が難しい課題に対して、自ら積極的に他者に関わり、他者の意見や考え方を受け入れながら取組もうとしている。【協調性】</p> <p>④自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。【主体性】</p>

8 単元で育成したい資質・能力の具体的な姿

コミュニケーション能力	協調性	主体性
<p>○成功イメージを実現させるための企画内容や実施方法について、根拠を明確にしなが自分の考えを持ち、他者の企画案や他者から指摘される内容を理解することができる。</p> <p>○グループに分かれて話し合う際、根拠と主張を明確にして言葉で伝え合うことを通して、互いの主張の意図や思いを認め、尊重し合うことができる。</p>	<p>○地域行事への参画という生徒個人・学校だけでは実現が難しい課題に対して、自ら積極的にグループメンバーやCSメンバーと関わり、ともに成功イメージ実現に向けたより良い実施方法を導くことができる。</p> <p>○「三次ふれあいフェスタ」参画に向けて協働して取り組むことができる。</p>	<p>○日々の生活の中で、自己や社会の課題に対して、自ら目標を設定することができる。</p> <p>○地域の中で生活ができていることや、生活を支えてくれている人が存在することへの感謝の心を持ち、自らの判断で、自他の幸福のためによりよい取組方法を模索しながら信念を持って行動することができる。</p>

<p>○成功イメージを実現させるために、参画の目的や対象者、期待する効果などの視点を明確に持つことができる。</p> <p>○同級生や教員、CSを生かした地域人材など他者の考えを活用することができる。</p> <p>○根拠や合理性などを問う意識や論議することの価値がわかる。</p>		
---	--	--

9 単元計画 (37 時間)

	学習活動 (37 時間)	知	思	主	評価方法	他教科との関連・外部人材の活用等
<p>【第一部】 これまでの学びを 生かして地域に 貢献するための 企画を立案する (10)</p>	<p>【課題の設定】 (1 時間) 「三次ふれあいフェスタ」の企画の目的や中学生に期待することを知る。 (目的) 地域の人々のふれあいを深める。 (期待すること) 第1・2学年の学びを生かして、三次の良さを最大限アピールすること。 →「三次ふれあいフェスタ」への参画依頼を受ける。</p>	①			振り返りシート	<p>「三次ふれあいフェスタ」実行委員会 会長：梵 大英様 副会長：矢谷 貴司様 ・企画の目的やこれまでの様子、出店内容、中学生に期待することなどを教えていただく。</p>
	<p>【情報の収集】 (2 時間) 「三次ふれあいフェスタ」について情報を収集する。 (参加人数) 約 1000 人程度 (年齢層) 特に多いのは 60～70 歳代 (これまでの出店内容) 食べ物バザーが多く、一部お茶席や子ども対象のゲームも行われる。 1・2年生で行った学習を基に、地域とどのような関わりをもってきたか振り返る。 (1 年次) 三次の特産や名物を自然・食べ物・もののけ・小路・商店街の 5 グループに分け、グループごとに「現在の三次の良さや誇れるものを生かした『稼げる観光』」案を提案する。 (2 年次) 職場体験学習を通して、三次で実際に働かれている方々の思いや「働くこと」「社会に貢献すること」の意義について考える。</p>			①	振り返りシート	

	<p>【整理・分析】（6時間） 調べたことや振り返りを通して確認した内容から、「三次ふれあいフェスタ」参画の成功イメージを設定する。 →（成功イメージ） 地域の人とふれ合い、三次を盛り上げるとい目標を達成するため、積極的に行動して三次の良さを知ってもらい、笑顔でみんな一緒に楽しむ姿が見たい！</p> <p>目標を達成するための企画の枠組みを設定する。（3グループ） →①体験グループ（フェスタ参加者とともに体験できる活動を行う） ②新アイデア発信グループ（三次の特産品を活かした食べ物について新アイデアを考え紹介・発信する） ③三次の魅力発信グループ（食べ物以外の現在の三次の魅力について紹介・発信する）</p>	③		振り返りシート	
	<p>【まとめ・表現】（1時間） 各グループで第一次企画書を作成し、各グループ担当のCSメンバーに提案する。 →①射的体験 ②ピオーネポップコーン販売 ③スタンプラリー</p>	②		振り返りシート 第一次企画書	<p>森川 幸郎様（CSメンバー） 穴戸 弘明様（CSメンバー） 和田 健作様（CSメンバー） 藤川 節子様 岡田 美津子様（三次西女性会会長） 天野 英樹様（天野商店代表取締役） 石田 睦子様（CSメンバー） 井上 峯晴様（CSメンバー） 西川 正治様（地域コーディネーター） ・各グループに分かれ、企画内容に対して助言をいただく。</p>
【第二部】三次の良さを伝え人々のふれあいを大切にしたい	<p>【課題の設定】（1時間） CSメンバーからいただいた意見や改善案を基に、参画の目的と対象者、期待する効果を再度確認し、企画書の課題点を整理する。 （意見・改善案） ・中学生やCSメンバーだけでなく、来場者や運営者にもアンケートを実施して、感想や意見を求めているかどうか。 ・ポスターやチラシに企画内容を紹介するのはどうか。等</p>	①	②	振り返りシート	
	<p>【情報の収集】（6時間） 課題点を解決するために、試作やフィールドワーク、著作権の承認を得る活動等を行う。（二次企画書の作成）</p> <p>①「三中射的」 ・的や景品に用いるキャラクターの著作権の承認依頼</p> <p>②「ピオ太郎ポップコーン大作戦」 ・ポップコーンの試作 ・飲食物取扱いに関わる保健所との連携</p>	②		振り返りシート	<p>（社会科）著作権 （家庭科）試作・調理実習 （国語科）「複数の情報を関連づけて考えをまとめる」（作り手の意図を伝えるための効果的な広告作成）</p> <p>植田 千佳穂様（もののけミュージアム館長） ・「もののけミュージアム」で使用されているキャラクターの著作権に関わる許可をいただく。</p> <p>三上 陽子様（東洋広告 社員） ・より効果的な宣伝をするための広告作成のポイントを教えてください。</p>

企画を運営する (22)	<ul style="list-style-type: none"> ・ピオーネ生産組合に問い合わせ、商標登録確認を行う <p>③「スタンプラリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各スポットの情報収集のためのフィールドワーク 				森岡 晋様（三次地方史研究会員）	<ul style="list-style-type: none"> ・三次町の小路について、由来や歴史、現在の生活との関わりについて教えていただく。
	<p>【整理・分析】（9時間）</p> <p>設定した目標と第二次企画書を照らし合わせ、企画内容の最終確認を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで必要な準備を進める。 <p>①「三中射的」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・的や銃、景品等の作成 ・ルール決め ・立て看板（企画名やルールの紹介） <p>②「ピオ太郎ポップコーン大作戦」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポップコーンの試作 ・ポップの作成 ・広告の作成 ・容器用パッケージの作成、準備 <p>③「スタンプラリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット（マップ、各スポットの説明）の作成 ・消しゴムスタンプの作成 ・各スポットのクイズ考案 		③	振り返りシート 第二次企画書	<p>〈②グループ〉</p> <p>藤田 三津恵様（「カフェ クラスメイト」オーナー）</p> <p>田中 みどり様（民生児童・母子推進委員）</p> <p>中村 緑様（CSメンバー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポップコーン試作に関わって、指導や助言をいただく。 	
	<p>【まとめ・表現】（6時間）</p> <p>「三次ふれあいフェスタ」に参画し、企画を運営する。</p>		④	振り返りシート	<p>森川 幸郎様（CSメンバー）</p> <p>穴戸 弘明様（CSメンバー）</p> <p>井上 峯晴様（CSメンバー）</p> <p>中村 緑様（CSメンバー）</p> <p>西川 正治様（地域コーディネーター）</p> <p>田中 みどり様（民生児童・母子推進委員）</p> <p>藤田 三津恵様（「カフェ クラスメイト」オーナー）</p> <p>森岡 晋様（三次地方史研究会員）</p>	
【第三部】自分の成長を振り返り	<p>【課題の設定】（1時間）</p> <p>「三次ふれあいフェスタ」での活動を振り返り、目標に対する実施内容の成果や課題を振り返る。</p> <p>（振り返る視点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日までの準備段階で良かったこと、苦勞したこと、問題点 ・当日の活動で良かったこと、苦勞したこと、問題点 <p>※「楽しかった」「人が集まった」等ではなく、目標に対する振り返りだということをおさえる。</p>	③		振り返りシート		
	<p>【情報の収集】（1時間）</p> <p>来場者アンケートや「三次ふれあいフェスタ」運営者から得た評価や感想を確認する。</p>		③	振り返りシート		

<p>今後のキャリアプランにつなげる (5)</p>	<p>【整理・分析】 (1時間) (本時) 成功イメージと照らし合わせ、自分たちの振り返りとアンケート結果を分析する。 (分析の視点) ・地域の方々とのふれあいができていたかどうか。 ・「三次の良さ」を伝えられる企画になっていたかどうか。 ・三次の活性化につながっていたかどうか。 →自分たちは地域の方々の期待に応えることができているかを考える。 (自分たちが成果・課題と認識していた点に対して来場者や運営者はどのように認識しているのか。)</p>	<p>③</p>	<p>振り返りシート</p>	
	<p>【まとめ・表現】 (2時間) 「三次ふれあいフェスタ」実行委員会やCSメンバーを招聘し、企画の成果や課題、活動全体のまとめを発表する。 (まとめる内容) ・これまでの学びを生かして地域に貢献することが目的であり、手段として「三次ふれあいフェスタ」に参画したが、この手段が適切だったか。 ・PR方法や企画内容は適切だったか。 ・(1, 2年生での学習も含めて) 情報収集は十分に行えていたか。 ・対象者は適切だったか。 等 3年間を通して高めてきた3つの資質・能力について、自身の成長と今後への生かし方をまとめる。 ・高めてきた資質・能力を、今後の日常生活や将来にどのように生かしていきたいか。 ・今後、自分はどのように社会と関わっていきたいか。 等</p>	<p>④</p>	<p>振り返りシート 発表(まとめ資料)内容</p>	<p>梵 大英様 (「三次ふれあいフェスタ」実行委員会会長) 矢谷 貴司様 (「三次ふれあいフェスタ」実行委員会副会長) 中川 貴文様 (「三次ふれあいフェスタ」実行委員会副会長) 森川 幸郎様 (CSメンバー) 石田 睦子様 (CSメンバー) 宍戸 弘明様 (CSメンバー) 和田 健作様 (CSメンバー) 西川 正治様 (地域コーディネーター) 田中 みどり様 (民生児童・母子推進委員) 藤田 三津恵様 (「カフェ クラスメイト」オーナー) 森岡 晋様 (三次地方史研究会員) ・発表を聞き、まとめの内容や活動全体に対して評価や感想をいただく。</p>

10 本時の展開

(1) 本時の目標

○成功イメージと照らし合わせながら自分たちの振り返りとアンケート結果を分析し、自分たちは地域の方々の期待に応えることができているかを考えることができる。

(2) 本時の評価規準

○振り返りとアンケート結果を分析し、成功イメージと照らし合わせながら、活動の内容や成果、課題について整理・分析している。[思考力・判断力・表現力③]

(3つの資質・能力について)

○同級生や教員、CSを生かした地域人材など他者の考えを活用することができる。[コミュニケーション能力]

(ルーブリック)

A	成功イメージ（目標）と照らし合わせながら、アンケート結果や運営者からの評価を、具体的な数値や意見等を根拠に分析し、自分たちの振り返りと比較して課題を認識することができる。
B	成功イメージ（目標）と照らし合わせながら、アンケート結果や運営者からの評価を分析し、自分たちの振り返りと比較することができる。
C	アンケート結果や運営者からの評価を確認することはできるが、自分たちの振り返りとつなげたり比較したりすることができていない。

<B評価に至らない生徒への支援方法>

- ・自分たちで設定した「三次ふれあいフェスタ」参画の成功イメージを再度確認させる。
- ・「三次の良さを伝える」「地域のふれあいを大切にする」「三次の活性化」など観点を分け、自分たちの振り返りとアンケート結果等を比較する。

(3) 準備物

ワークシート、モニター、タブレット端末、振り返りシート

(4) 本時の展開

	学習活動	○指導上の手立て ●留意点	評価規準 (評価方法)
導入	1 本時の流れを確認する。 2 本時の目標を確認する。	○本時の流れを示す。 ○本時の目標と、本時でつけたい資質・能力を確認させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <p>本時の学習内容・目標 成功イメージと照らし合わせながら自分たちの振り返りとアンケート結果を分析し、自分たちは地域の方々の期待に応えることができているかを考える。</p> <p>本時でつけたい資質・能力 コミュニケーション能力（他者の意見を活用することができる）</p> </div>			
展開	3 前時で振り返った内容を確認する。 ・当日までの準備段階で良かったこと、苦労したこと、問題点 ・当日の活動で良かったこと、苦労したこと、問題点 等 4 来場者アンケートや「三次ふれあいフェスタ」運営者から得た評価や感想を確認する。 ・前時で分担した担当項目を確認し、評価や感想を分析する。	○グループリーダーと副リーダーを中心に活動させる。 ●ここからの活動は、グループごとにまとまって行わせる。 ●イラストの著作権、写真や名前等の個人情報の扱いに十分留意させる。 ●「楽しかった」「人が集まった」等ではなく、目標に対する振り返りだということを再度おさえる。 ○来場者アンケートおよび運営者からの評価を各グループに渡し、以下のような内容を中心に分析させる。 ・地域の方々とふれあいができていたかどうか。 ・「三次の良さ」を伝えられる企画になっていたかどうか。 ・三次の活性化につながっていたかどうか。 ○発表会で使用するまとめのスライド作成に向けて、具体的な数字や意見を示すなどして説得力が増す工夫をさせる。	

	<p>5 自分たちの振り返りとアンケート結果を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちは地域の方々の期待に応えることができていたかを考える。 自分たちが成果・課題と認識していた点に対して来場者や運営者はどのように認識しているのかを考える。 	<p>○自分たちの振り返りとアンケート結果を比較させる。</p> <p>●自分たちが設定した成功イメージと目標に対して振り返りをさせる。自分たちと地域の方々には認識の差があることが予想されるが、その差を否定的・悲観的に受け取るのではなく、改善に向けた貴重な意見だと認識させる。</p>	<p>振り返りとアンケート結果を分析し、成功イメージと照らし合わせながら、活動の内容や成果、課題について整理・分析している。[思考力・判断力・表現力③] (振り返りシート)</p>
<p>【予想される生徒の反応例】</p> <ul style="list-style-type: none"> たくさんのお客さんに企画の内容を喜んでいただくことができたが、自分たちが思っていたよりも三次の良さを伝えることができていなかった。お客さんの目線で、より知りたい三次の情報を収集するべきだった。 自分のグループは子どもが楽しむことができる企画を考えてきた。来てくださった方が「中学生の皆さんが一生懸命取り組んでおられ、子どもが楽しんでいたので、親子で来て良かった。」と記入してくださった。企画の目的や相手を明確にすることは大切だと改めて感じた。 			
<p>終末</p>	<p>6 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動の振り返りをする。 	<p>○本時の活動を振り返らせる。</p>	<p>振り返りとアンケート結果を分析し、成功イメージと照らし合わせながら、活動の内容や成果、課題について整理・分析している。[思考力・判断力・表現力③] (振り返りシート)</p>
<p>【振り返りに表記させたい資質・能力に関する記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方々のアンケートを分析すると、成果・課題について自分たちの感じたことと差があり、大変参考になった。自分たちとは違う視点から意見や感想をいただくことは大切だと感じた。 私たちが考えた企画を楽しみ、笑顔になってくださった人の声を直接知ることができて嬉しかった。自分たちの力で地域の人を喜ばせることができ、今後の活動でも三次の良さをたくさんの人に伝えていきたいと思った。 今回は三次町内の「三次ふれあいフェスタ」に参加する形で三次の良さを伝えてきたが、よりよい方法があるのではないかと感じた。他者と話し合い、目的と照らし合わせて一番良い方法は何かを検討していくことを大切にしたい。 			
<p>7 次時以降の内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表会までの授業時数は2時間。 その時間内にスライドをまとめきれように見通しをもつこと。 		<p>○次時以降の内容を確認させる。</p>	